

# CONTACT Japan

～ AC2 終了 31号 ～

発行

CONTACT Japan

代表 : 大迫 公成  
〒 578-0925 東大阪市稲葉 1-5-11-523  
事務局 : CONTACT Japan 事務局  
〒 477-0034 東海市養父町諸之木 26-3  
エスポア横須賀 802 竹林方

## 西はりま天文台で AC2 を開催

2004年3月27日、兵庫県立西はりま天文台公園内においてAdvance CONTACTが行なわれた。

Advance CONTACTは、CONTACT Japanの合宿企画で時間的な制約や知識不足等の理由で適当に処理していた部分をもう少し深く考察することを目的とし、2002年2月に第一回が行われた。今回は今年の11月に行われるCONTACT Japan 6の企画に向けて異星人の諸設定に関する内容を掘り下げることが主眼とした検討会、また西はりま天文台で今秋に公開が予定されている2m望遠鏡を使用したSETIを計画しておられる文台主任研究員の鳴沢氏の講演、そして予定外の2m望遠鏡の見学、夜には60cm望遠鏡での観望会に参加するなど盛りだくさんの内容となった。

西はりま天文台は兵庫県佐用郡の大撫山山頂にあり、交通アクセスは決してよいとはいえない。それでも総勢26名の参加者の方々は(苦労した方もおられたが)定刻までにほぼ現地入りし、13時30分過ぎに天文台内のスタディールームで開会式となった。

開会式のあと恒例の大迫代表によるCONTACT Japanの紹介と、先日アメリカで行われたCONTACT2003の簡単な報告があった(CONTACT2003の詳細は別記事を参照)。

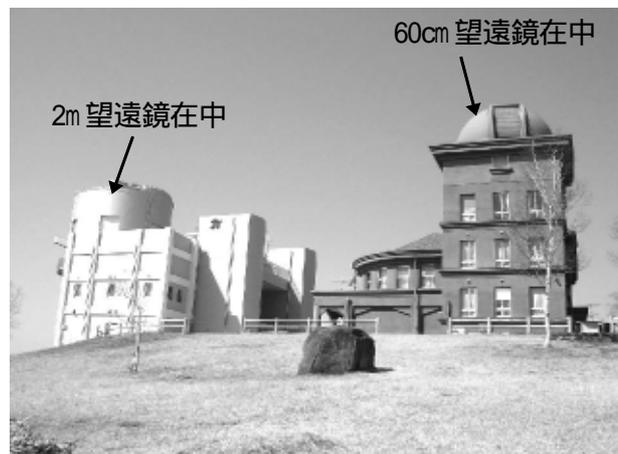
さて、最初の企画は西はりま天文台の鳴沢真也主任研究員による講演、「2m望遠鏡で宇宙人を探す - 光学・赤外線SETIの可能性 -」である。鳴沢氏は2002年の3月に同じく西はりま天文台で行ったCONTACT Japan PresentationでSETIに興味をもたれ(!)、ご自分たちでもファースト・コンタクト・シミュレーションを行なわれたそうだ。そしてアメリカでは普通の望遠鏡を使ってSETIが行われていることを知り、このたび稼働する2m望遠鏡を使ってSETIができないかを考えるようになったという。

鳴沢氏はいろいろ調べているうちにフリーマン・ダイソン教授の論文を読み、赤外線を出している天体を探しだしてそれがダイソン球かどうかを調べることが

できるのではないかと。しかしダイソン球からは中間赤外線が出ていると思われ、西はりま天文台の2m望遠鏡は近赤外線用のカメラしかなく探査には使えない。では完全に恒星を球で覆うのではなく、リングワールド(!)形態であれば近赤外線でも検出できるのではないかと、思索を練っているとのことだった。SFをほとんど読んだことがないという鳴沢氏からSFファンには聞き覚えのある単語が次々と飛び出してきて、たいへん面白い講演だった。

講演の後、予定にはなかったのだが、せっかくですから見学しませんか、と調整中の2m望遠鏡を見せていただくことになった。

2m望遠鏡のために新しい13階建ての施設が現天文台の隣に建設されており、つい一週間ほど前にエンジニアリングファーストライトテスト(初受光テスト)が行われたばかりである。観測室の外観はドーム型ではなく、「すばる」のような円筒形だったが、よく見ると髭のような突起がでていたりとなにやらSF的な様相をしている。坂元誠研究員に施設の1階から案内をしていただき、いよいよ望遠鏡本体のある観測室に入る。内部は空調が効いており、上着を着ていなければ寒いくらいだったが、一般人としてはじめて見るという2m望遠鏡の前に参加者はかなり熱くなっていた。公開



時には望遠鏡の周囲に柵が設置されるそうだが、我々と望遠鏡を遮るものはなにもなく、直に触れることができた(ここだけの秘密だが、ほんとうに触りまくった。それ以上のこともした)。まだ可視分光器やCCDカメラなどが設置されていなかったが、ほぼ完成形の望遠鏡を小一時間なめ尽くすように堪能することができた。おそらく一般人でこれほど2m望遠鏡に接近できたのは我々が最初で最後ではないだろうか?最後に観測室の天井を開閉するというデモンストレーションもあり、たいへん貴重な経験をさせていただいた。この2m望遠鏡であるが、反射望遠鏡として国内で最大(42年振りの更新)となり、一般公開目的の望遠鏡としては世界最大の大きさになる。公開後にはぜひ見に行ってください。

見学の興奮も冷めやらぬままスタディールームに戻り、本企画である「FCSに必要な異星人の設定項目の考察」を開始した。前回のCONTACT Japan 5分科会での検討結果をもとに、さらに具体的に煮詰めていき次回のCONTACT Japan 6の企画に役立てようという目論見だったのだが、検討内容を絞り込むことができず少し散漫な話し合いとなってしまった。それでも「メンタリティ確認テスト」のような具体的なメソッドも提案

され、成果はあったと思う。

夕食を食堂で済ませた後、最初の夜企画は天文台での観望会である。これは西はりま天文台公園の宿泊者を対象して行われているもので、我々の他に中学生の団体や一般の方々も一緒になるのでかなりの人数になった。昼間は晴れてはいたものの薄雲がかかっていたが、夜が更けるにつれ雲は晴れていき十分な観測日和だった。われわれはまず2Fのベランダ「スタープラザ」で屈折望遠鏡を使って月面を観測。昼から夜になっていくグラデーションがたいそう美しかった。東方最大離角に近い金星も観測し、はっきりと半月形の金星を観ることができた。そして60cm望遠鏡の観測室に行き、土星、木星を観測。カッシーニの間隙やガリレオ衛星に参加者一同大満足であった。

観望会の後は全員宿泊棟に移動し、夜企画を行った。2m望遠鏡の見学で時間の足りなかった昼の検討会の続きを行う、はずだったのだが、畳の上で車座になって話しているうちに、お酒も入ったせいもありフリートークになってしまった。

いつ終わるともしれない宴会の始まりとともに、Advance CONTACT 2は終了した。

## 講演概要

今回Advance CONTACT 2では、西はりま天文公園の主任研究員の鳴沢さんに講演してもらいました。内容は今から彼が西はりまの2m鏡を使ってやろうとしているSETIの計画についてです。

最近、海の方こうでは電波によるSETIよりも光によるSETI(OSETI、おせち、って読むのか?)が流行だそうです。理由は

- (1)電波よりもレーザーの方が沢山の情報を載せられる
- (2)瞬間的であれば、現在の技術でも太陽よりも明るい光が出せる

ということらしいです。

それでレーザーなら2m鏡でいけるだろうということいろいろ調べると、やはりナノ秒くらいの時間分解能が必要だろう、と。ところが、これが高い(十億くらい!)ので、ちょっと予算的にはしばらく無理。

それでは2m鏡に取り付け予定の赤外線検出器で何かできないかと調べていると、赤外線でダイソン球が探せることが判った。

ダイソン球探しは、十年くらい前に寿岳先生(西はりまではJ)とファッション誌みたく呼ばれているような・・・あ、これはナイショって言われてたんだっ

け)らがG-K-F型星を中心に調べたことがある。ところが、最近もっと暗いM型星にも生命がいる可能性が指摘されてきたので、今回はまだ手つかずのM型星を中心に調べる。

ただ、波長の関係で見つかるのは、完全なダイソン球ではなく、リングワールドやダイソン・パレット(惑星クラスの人工天体)かもしれない。

また、食連星のデータを洗い直してそっちからも、ダイソン天体を探してみよう。

とりあえずは蠍座の怪しい赤外線星、コードネーム「さそりの毒針」が標的。・・・ちゅうよな話でした。

ダイソン球探しは日本では今彼だけ。世界でもリングワールドを探そうとしているのは彼だけじゃないかな。がんばってほしいです。

それにしても鳴沢さん、SETIをやってみたくと思ったのは、前に我々とFCSをやったからだそうで、若い才能をイバラの道に引き込んだような気がして、(ちょっとだけ)心が痛んだのでした。

# ワールドビルドに関する部分の議論骨子

Advance CONTACT 2 では、ワールドビルドを行う際にどのような問題点があるか、それを解決するにはどういうことを検討するべきなのか、ということをお話しました。以下にその議論の骨子を示します。

- 1) Day Contactで不満に思うこと
  - ・地球に近い惑星設定のため、生物の意外性が少ない
  - ・メンタリティが紋切り型で終わってしまう
- 2) 何がメンタリティを規定しているのか
  - ・我々が演じる上では、「日本人」である部分が強すぎる
  - ・まだインド人や台湾人とコンタクトした方が、より大きなカルチャーギャップを感じることが出来る
- 3) メンタリティの限界点
  - ・「何故、人類とコンタクトするのか？」の部分にメンタリティが発揮されるはず
  - ・あまりにも異質すぎる相手とはコンタクトできない。従って、まずはお互いのメンタリティの共通項でコンタクトを行っているはず-> あまりにも突拍子なメンタリティが出てこない原因？
- 4) どのような設定項目を作ればよいのか？
  - ・対立する2つの項目から、どちらか一方を選択していったらどうか？惑星環境はその選択のための基礎資料となるかも。

## 対立項目の例)

個体の生存	種の生存
生物的欲求	精神的欲求
革新的	保守的
好奇心旺盛	引っ込み思案
まじめ	ふまじめ
うそつき	正直
利己的	利他的
好戦的	友好的
血縁重視	社会重視

論理的	非論理的
楽観的	悲観的
中央集権	地方分権
やさしい	キビシイ
自己変革	環境変革
細かい	おおざっぱ
協調的	非協調的
短気	鷹揚
あねご	舎弟
多種知性を認める	not
ジェネラリスト	スペシャリスト
閉鎖的	開放的
宗教がある	
虚構を信じる	
宣教師的	
計画的	
締め切りを守る(約束を守る)	

結論からすれば、

1. 社会の構成はどうなっているのか
2. 集団としての性向は？
3. 個体としての性向は？
4. 論理と感情の優先順位は？

の4つくらいにくることが出来るか・・・



## Advance CONTACT 2 参加者の声

Advance CONTACT 6 についての感想

菅谷 智美

私がAdvance CONTACTに参加したのは、現在通っている専門学校で教師である北山しお先生から、貴重な経験になるといわれたからでした。

参加申し込みの段階で、初心者には難しいと書かれ

てあり、事実、講演会やその後の考察などは、やり取りされる情報量が大量かつ専門的であるため、知識の無い私にはかなり難解といえる内容でした。

といっても、つまらなかったわけではなく、ほかの方たちの話される内容を聞いているだけでも、十分楽しめました。ただ、聞き取ることに必死で、質問され

たときに押し黙ってしまったのは、失敗でした。

そのあとの観望会では、昼間に出ている薄い雲がうまく晴れ、きちんと星を見ることもできました。やはり、せっかく天文台まで来ているのに天候不良で星を見られないというのは、悲しいものがあります。とはいえ、こればかりはどうしようもないのですが、暗いところが得意ではないため、久しく星を見上げることなど無かったのですが、昔、親にねだって天体望遠鏡を買ってもらったときのことを思い出しました。

その後の、夜企画では、最終的にそれぞれがグループを作り、ばらばらに会話をするという形になりました。といっても、私に議論などができるはずは無く、話を聞かせていただいたり、資料を見せていただいたりしていました。それは、私にとっては有意義な時間でしたが、相手の方にとってはかなり物足りなかったのではないかと、反省しています。やはり、前もって資料をあさり、最低限の知識をつけて、参加すべきでした。

このような機会がまたあるようでしたら、そのときはもう少しましな会話ができるように、精進したいと思います。

#### Advance CONTACT 2 in NishiHarima 参加レポート 谷内 都紀子

レポートを書けい！ との天の声により、ただ今これを書いております。

CONTACT自体が初参加の谷内です。北山しお先生のお知らせプリント(?)より、勝手に参加させていただきました。そういえば、しお先生って、昔は『佐藤しお』だったとどなたか言っていたと思うのですが、本当ですか？

えーと、とりあえず、遅刻しました。

ありえないほど、遅刻しました。

思わず途中で帰ろうかと真剣に悩むぐらい、遅刻しました。

おのれ、姫新線……。途中で降ろしやがって……。次の電車来るまで、一時間ぐらい、どうしたらいいのかわからず、途方にくれちゃったじゃないか！

そんなわけで、メインの2m望遠鏡を見逃しました……。

あれ？ メインって、これでしたっけ？ そう言っていましたよね？

CONTACTなのに、CONTACTがメインではないのはこれいかに……。

ああでも、あの星々から、異星人がやってくるのかと考えると、正しいのでしょうか。

2m望遠鏡は見れませんでした。夜の展望会は大変楽しかったです。お月様が粘土でできてるっぽかった

ですね。土星は、中にカスタードクリームの入ったどらやきでした。おいしそう。

一番驚いたのが、プラネタリウム職員さん(元でしたでしょうか)の講義(あれは講義ですよ！)。

判り易かったですねー！ 星座に無知な私でも、説明を聞いて、大体把握できましたもの。びっくり。星座早見盤、結局必要なかったですねえ。

で、CONTACT。

とにかく理解しようとメモをとったり、友達と筆談で会話したりしながら、みなさんの話を聞いていました。

それで思ったのは、やはり小説の設定と、CONTACTの設定には共通項が多いことです。

判っていたけど、再確認させられたこと。

当たり前すぎて気づいていなかったこと。

そういうことをたくさん聞いて、本当に勉強になりました。

今度は、本当にCONTACTがしたいですね。機会があれば、また参加させてください。

なにやら小学生の作文のようなレポート(もどき)ですみません。本当に小説家志望ですか、私。

今回、お世話になった皆様。大変楽しかったです。仲良くしてもらえて嬉しかったです。女性の方々、今度もお泊りのときは、布団を花びら状に敷きましょう！

#### Advance CONTACT 2 参加レポート

溝口 \*\*

今回が初参加となりました「Advance CONTACT 2」。

こういったイベント事に参加した経験はあまりないことも手伝って、とても緊張しつつ当日を迎えました。

しかし、いきなりハプニング発生。一緒に行くはずだった友人から「遅刻する」との連絡が入り、一人で向かうこととなってしまいました。方向音痴の私は傍から見てかなり挙動不審者になっていたでしょうが、今回は珍しく無事に辿りつくことができました。開催場所は、兵庫県佐用町にある「西はりま天文台」です。

駅から降りたところで、同じ学校の人と、同じくAdvance CONTACT 2に向かうであろう方々を発見。お互いに目が合った瞬間、何か同じ空気を感じ取りそのままタクシーに同乗して天文台へ。

まず最初は、天文台主任研究員の鳴沢氏による講演でした。

が、話のレベルが高く(私の知識量が少ないだけかもしれない……)途中から話を追うだけでいっぱいいっぱいでした(反省)。

その後には、異星人は何を目的としてコンタクトをするのかということや、自分たちとは違う社会を構築する際に必要な、基本的な項目は何か、といったようなことを考える時間がありました。

元々そういったことを考えるのはとても好きなので、色々と考えたり話し合ったりして楽しかったです。

\* 異星人文明の基本的な設定について \*

- 対立する価値観の重きを変えてみる -

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| * 個体の生存          | * 種の生存            |
| * 生物的欲求          | * 精神的欲求           |
| * 革新的            | * 保守的             |
| * 他知性に対して価値を見出せる | * 他知性に対して価値を見出せない |

などなど。

そしてその後2m望遠鏡を見学させていただきました！

まず、その望遠鏡の大きさにおどろきです。しかし、カメラを忘れてしまってせっかくのシャッターチャンスを逃してしまいました。仕方なく携帯電話のカメラで撮影しましたが、解像度がそれほど高くないので残念です。

望遠鏡自体を見学させていただいただけなので、是非今度は2m望遠鏡で星を見たいです。

2m望遠鏡の見学が終わった後、ようやく友人と合流。

その日の夜には星の観望会があり、望遠鏡で月や金星、木星、土星などを見ました。土星はぱっと見どらやきようです。

星座の観賞の時間もあって、普段は数える程しか星が見えないので、空中を覆う無数の星の姿にはとても感激しました。私の家の場所はそれほど都会でもないのですが、やっぱり見えている星の数は少ないものなんです。

夜も昼間の企画の続きということで、皆で部屋に集まって、そして乾杯。

しかしお酒の飲めない私は、烏龍茶の自己飲量を更新しつつ皆さんの話を聞いていました。ひたすらお茶とお菓子ばかり食べていてすみません。

お酒を飲めない年齢というのは辛いものです。といっても、もともとお酒に弱い家系なので、そんなに飲めないでしょうが。

結局日付が変わったあたりで睡魔に襲われて、お先に眠らせていただきました。

いろいろと楽しい経験ができて良かったです。

星は好きなので、もっと知識を深めていきたいと思えます。



## 参加者レポート

小鯛 哲

西播磨天文台に惹かれて、申し込みました。初参加でAC2です。

今回の内容を見て、これはまるで半分スタッフ会議かと……。ホントに来て良かったのだろうかと思いつつ参加しました。

今までのコンタクトの問題点で、所詮日本人が異星人をやっているのが結局は日本的発想や行動になりやすいと云うことでしたが、それについて、普段から突飛な発想をする日本人離れした奴や、変人が異星人をすると良い(面白い)のかなと感じました。異星人がどんな考え方や行動をするかと云うことをチームでディスカッションする時間は必要だろうなと思えます。

今回ショックだったのは、新しく出来る2m望遠鏡が経緯台だったこと。コンピュータ制御で赤道儀でなくても天体を追尾出来る様になったので、もう強度的に問題がない経緯台が現在の主流だと聞いて、知らない間に時代が変わったんだと。

## 当日アンケートから

- ・企画会議兼飲み会は楽しかったですね。いくつかまとまったこともありまして。こういうタタミのミーティングはアメリカのCONTACTにはないので、写真をあちらへ送っときます。秋のCJ6はがんばりましょう>スタッフの皆さん よろしくお願ひします。
- ・天文台の見学と観望会は良かったのでまた来てみたい。特に2m望遠鏡で天体を見てみたい。
- ・ワールドビルドに必要な要件の企画が途中で終わってしまったのは残念です。興味深い話題があったがもう少し絞り込んだ形で議題をだしてもらえたら漠然とした意見が減ったと思う。
- ・異星人のメンタリティ設定に関して、我々どーも無意識の内に前提としていることがあって、我々自身

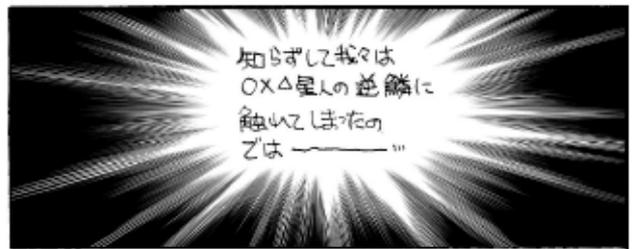
もその前提に気付いていないので、結局、DCなどで考える異星人のメンタリティが、同じようなものになってしまうのではないのでしょうか？ 今度、異星人のメンタリティを考えるような企画をやる場合、地球人 or 日本人を他者が見た場合、どのように見えるかというような事をやってみたらどうでしょうか？

- ・企画がもり沢山で堪能致しました。短い時間に「濃い」企画が次々と続き、お得な気分でした。コストパフォーマンス高い!!
- ・初参加なので、他の方の意見を聞くだけで精一杯でした。夜の観望会は、個人が普通持っている望遠鏡では、まず見られないものを見ることができて、かなり楽しかったです。いつか、2m望遠鏡で見たいものですね。正直なところ、ここはかなり距離があるので、もう一度来るのは難しいと思います。
- ・今回は初参加なので、なかなか興味深いことがたくさんありました。けど、専門的なことがむずかしかったです。ただ、皆さんの話に度々ついていけなくなってしまったので、そこだけが残念という感じでした。
- ・FCSの完成度を上げるには、色々することがあるのだろうが、良いアイデアが出てこない。道は遠い...
- ・メイン企画（CJについての考察）の時間が少なく

なったのは残念でしたが、やむを得ないところでしょうか。個人的にはSFファン同士の雑談会が泊りがけで久しぶりに出来て、楽しかったのですが、人数が思ったより多かったのにも驚きでした。

- ・宇宙人の作り方(?)が、自分のやっている小説にもすごく通じるものがあるって、言われてみて「ナルホド」とか「そうだね」と再認識することができました。自分がファンタジーを書く時、「魔法の使える人間」や「特殊な人間」といかに人間をこねくりまわしているかに気がきました。
- ・会の雰囲気としては、良くいえばアットホーム。悪くいえば超内輪というカンジで、初めてだと入りにくいかも...。でも皆さんすごく親切で、色々話し掛けてもらったので嬉しかったです。また機会がありましたらぜひ。
- ・鳴沢先生のお話が面白かったです。ぜひ、ガンガン頑張っていたきたいです。夜になんとか形になった図がCJ6に生かされますように!
- ・鳴沢氏の講演はよかったです。もっとSFファンと交流を持ってもらってアイデアを語り合ったらいいのではないのでしょうか。
- ・晴れてよかった。天文イベント、Goodでした。KJ法の分析までもっていった山田さんに感謝。あとは飲みすぎで、、、、、、

# 鳴沢先生 No.6



# アメリカ「CONTACT 2004」参加報告

## その1:「概要報告」

CONTACT Japan 代表 大迫公成

2004年3月の12日から14日にかけて、カリフォルニアでCONTACT第21回大会「CONTACT 2004 21st Annual Conference: March 12-14」が開催されたので参加してきた。今年はタイミング良く、サブタイトルの「The Challenge of Mars: Past, Present, Future」が示すとおり「火星」に関する発表がテーマのシンポジウム大会である。開催地は、シリコンバレーの中心地サンノゼから北へサンフランシスコ寄りにあるNASA AMES研究所だ。モフエット空軍基地に隣接し滑走路横には気球船を嘗て格納したという巨大なハンガーが2棟あるのも印象的だった。滑走路にはスペースシャトルも降りたことがあるそうだ。毎年大会も21回目である。講演と平行し地球人チーム(参加者)と異星人チーム(オロビル高校の生徒たち)が各設定をして最終日にファーストコンタクトが行われる。またアメリカの場合、教師やSF作家の他にNASAの第1線研究者が参加するので講演内容もなかなか興味深い。今回はアメリカ在住でコンタクトジャパンMLにアクセスされている「電気羊」さんご夫妻に初めてお目にかかるのも楽しみだった。また大会2日目には「CONTACT Japan」の活動について報告することになっていた。

プログラムブックによれば企画ハイライトは次の通りである。

「スタートレック」シリーズで有名なリック・スターンバック氏の企画「MARS BASE」。2018年から2028年にかけての火星基地での生活をシミュレートするワークショップである。

キム・スタンリー・ロビンソン氏その他のメンバーによる「AVATARS2004」。火星の過去と未来を3D画像で視覚化する試みである。火星ローバー(今回はスピリットとオポチュニティ)の開発に密接に関係する研究である。

「COTI HI」は、今回オロビル高校の生徒たちによって行われるワールドビルド。最終日にファーストコンタクトをする。基本は定番の「COTI(Culture Of The Imagination)」である。

教師たちが中心になって行う未来への教育企画「Education for the Future」もある。

「SOLSYS」は、将来の太陽系社会のあり方を考える企画。今回はハミルトン大学の学生たちが発表を行

う。

大会前夜の様子：

木立の中に点在する建物から宿舎をやっと見つけてチェックインしたときは、午後9時を過ぎていたがロビーではスタッフが準備の最中だった。日本の大会準備光景と全く変わらない。「ご苦労さまです」といいながらチェックインしていると私の名前が呼ばれてびっくり。なんのことはない、封筒の名前を読んで確認が行われていたのである。部屋にはキングベッドがでんとあり大きな冷蔵庫と電子レンジが備えてある。バスはないがシャワーが使えるし結構広い部屋だった。テレビと電話もあるので一泊50ドルはかなり安い。しかも軍が警備しているから安全度は抜群である。しかしインターネットに接続するのは苦労した。NASAの機密漏洩防止対策のため簡単には市内回線につながらないからである。結局800番接続でいけることがわかりMCIのカードでつなぐことができた。もうひとつ恐れていたことが判明したがそれは食事である。朝と昼は大会側で用意してくれていたが、夕食は、ダウンタウンに行く車がない限り、NASA構内にあるマクドナルドしかないのだ。「電気羊」さんご夫妻のおかげで初日はおいしいタイ料理の店に行くことができたが、後日マックのバーガーをひとり噛しめる夜を過ごすことになる。それはさておきよいよ明日は大会初日である。荷物を置いて着替えるとロビーのスタッフのところへ行ってみた。すると見覚えのあるひとがいる。コンタクトの創始者でリーダーのジム・フナロ博士で





ある。温厚な笑顔がなつかしい。カプリロ大学を退官して今は同校の文化人類学教室名誉講師である。シアトル在住だ。ハグしてあいさつを交わす。10年ぶりの対面である。お互いにふけちゃったなあと笑いあった。他のスタッフも私を覚えていてくれてあいさつをする。ジムの最大の協力者でアーティストのジョエル・ヘーゲン博士とも再会する。「コンタクト(映画ではない)」のエイリアンのモデルはほとんど彼の製作によるものだ。また彼はNASAの火星プロジェクトにも参加している。後日の会話ではふたりともCJ6には行ってみたいと言っていた。

### 13日(金) 初日

すがすがしい朝の日光を浴びて小鳥の声の中を大きな木陰にリスを見ながら5分ほど歩くと会場に着く。朝の8時半から朝食サービスがあるのだ。パンや飲み物、コーヒーや果物が置いてあるので本当に助かった。9時から30分刻みの講演が始まる。メモはとるが時差ぼけで寝てしまった場合のためテープレコーダーを回しておくことにした。最初に会場で会った日本人カップルが「電気羊」さんご夫妻だと思ったら違って、男性は日本の某トップメーカーのマネージャー氏、女性はそのアシスタントの方だった。ウェブサイトからこの大会を知って参加されたとのこと。コンタクトジャパンのこともご存知だった。どうも新しい製品開拓が目的のようであった。「電気羊」さんご夫妻とはその後対面を果たしたがおふたりともかなりのSFファンである。「電気羊」さんは、カプリロ大学のいわゆる女子大生さんである。彼女のご主人は某コンピューター関連会社のアメリカ勤務だ。100人ほどの大会に日本人が合計5人参加というのは高いパーセントである。また数年前に「パラマウントスタジオ」で会ったアーティストのリック・スターンバックさんとも再会を果たした。そのとき彼が案内してくれたスタートレックの

セットはまだ記憶に鮮やかである。

毎日の講演とスピーカーを紹介しよう。講演内容は次のニュースレターで<その2「講演報告」>とさせていただきます。ご了承ください。

初日のプログラムと講演者は次のとおりだ。30分の時間枠で進行するのだ：

「月と火星：ヒューマンティの次のステップ」マイケル・シムズ(NASA Ames研究所火星探査センターの科学者)

「火星と時間感覚」オリバー・モートン(サイエンスライター。火星に関する著作多数)

「斬新なデザインツール」キース・ドイル(アーティスト・コンピュータープログラマー)

「ジオフュージョンの火星」チャック・スタイン(ソフトウェア視覚化技術のジオフュージョン社の共同創設者)

「火星の人類：ひとつのゴール、多くの方法」リック・スターンバック(技術者・科学者・アーティスト。スタートレックシリーズのメインアーティストとしても有名。Space Model Systems社を設立 <http://www.spacemodelsystems.com>)

「宇宙戦争」ジェラルド・ノルドリィ(元空軍将校。サイエンス・SF作家。コンタクトの会計担当でもある)

「アーティストの視点」ドン・ディビス(天文アーティスト)

「火星そしてその彼方：トモローランドのビジョンを実現する」アンドリュー・チェイキン(作家・科学者・編集者。「A Man on the Moon: The Triumphant Story of the Apollo Space Program」は有名)

「火星3部作リーディング」キム・スタンリー・ロビンソン(SF作家。受賞多数。「Red Mars」「Green Mars」は翻訳されている。「Blue Mars」はたしか未訳だ。)

「バルスームの遺産 - アメリカ南西部のレンズを通して見た火星」ジョン・カーター・マックナイト(編集者・コラムニスト。「Mars Society」の初代会長)

「火星の視覚化：過去と現在」キース・ビーネンボス(オランダから参加。火星風景の画像化を研究開発。美しい画像は以下で見ることができる)

<http://www.space4case.com>

<http://home-1.worldonline.nl/veenen/terrigen/mars/mars.html>

「生物学と火星の未来」クリス・マッケイ(NASA

Amesの惑星科学者。現在の研究テーマは、太陽系の進化と生命の起源。火星探査計画と人類の定住計画にも参加)

14日(土)

2日目のプログラムと講演者は次のとおり:

「コンタクトの考察」ダグラス・レイベック(ハミルトン大学文化人類学教授。著作多数)

「活性化する妄想」ダレル・アンダーソン(専門は印刷・画・映画用CG・ソフトウェア作成・イラストなど)

「短編3本」ジョエル・ヘイゲン(アーティスト。国際宇宙アーティスト協会(IAAA)の創設者。NASA Amesにも参加。アメリカコンタクトの主要なメンバー)

「M.A.R.S.: 数学、芸術、宗教、科学: 4つの相補的な信条体系」キャロル・セクイン(カリフォルニア大学バークレイ校のコンピューターサイエンス学部教授)

「大渦巻き プロジェクト」ジェローム・ラプル(1996年にはILMに技術部長として参加。スターウォーズ、AI、ハルク、ターミネーター3、タイムマシンや多数の映画のCGを担当。現在ILMでアーサー・C・クラークの「大渦巻き」映画版でクラークと工作中)

「サイバースペース・ミーツ・アウタースペース: 実際の火星訪問」ブルース・ダマー(コンタクトコンソーシアム。マースローバーのロボット技術の視覚画像開発)

「リードオンリーのエイリアンにどう対処するのか」アラン・タフ(カナダトロント大学名誉教授。Invitation to ETIの創設者および代表。SETIやバイオアストロノミー団体でも活躍中。http://www.ieti.org)

「エクソラリウム」ディビッド・プリン(科学者・SF作家。受賞多数)

「ETIプロジェクトへの招待」スカーレット・ワン(トロント大学で学位取得)

「エクソラリウム」シェルドン・ブラウン(カリフォルニア大学サンディエゴ校のアートにおけるコンピューティングの教授、および同センター所長。非常に幅広い分野で活躍中)

「コンタクトジャパンの報告」マサミチ・オオサコ(筆者)

「火星: 倫理学とETの社会生態学」ジム・フナロ(CONTACT創設者・代表。文化人類学者。カプリコ大学名誉講師)

「未来のための教育」ドン・スコット(教師。レンジャーでもある。未来のための教育のリーダー)

「地下の火星」ガス・フレドリック(科学技術教育者。火星の溶岩洞窟の研究に携わっている)

「COTI HI」リチャード・ジンマー(文化人類学者、心理学者。ハッチンススクール教師。学生に火星コロニーについて教えている)(その他の参加者: デイブ、キャロル、イスラエル)

「芸術と科学の車」ランドール・シュローダー(移動教育者。各種の自動車で全米をまわってユニークな教室とアートを作成している)

バンケット(夕食)

基調講演: マイケル・シムズ

15日(日)

最終日の講演プログラムは次のとおりである:

「言語上の表現とコンセンサスの形成」アリエル・オニール(ハミルトン大学。COTI HIに関与。学生の活動を通して文化振興いと社会的実践について言語学の研究をしている)

「火星砂漠研究ステーションにミッション支援を提供する」ジャスティン・ミリアム(マースソサエティ研究者)

Mars Societyの報告:

<http://www.new-worlds.org/mars/jc/story.html>

Mars Society Mars Desert Research Center のHP:

<http://www.livefromsiliconvalley.com/mars/contact2004/>

「ソルシスのシナリオを微調整する」リード・ライナー/パネル討論

ソルシスというのは未来の太陽系社会のシミュレーション。

「COTI」コンタクト

イスラエルが高校生をリードする。この内容も次回



ニュースレターで報告する。  
閉会あいさつがこのあとある。

まとめ：

コンタクトジャパンの活動報告は、口頭でのプレゼンだったがなんとかうまくいったと思う。CJ6の宣伝もした。しかしなんとといってもNASAのロゴがはいった演壇でコンタクトジャパンの活動報告をしたのは非常に気持ちのいいものであった。15分の持ち時間いっぱいだったが内容は好評で安心した。

アートショーの部屋には、火星風景のインタラクティブなアニメーションや、高校生たちの作成した異星生物のモデル、火星の立体視画像、CG、火星儀などがあり楽しかった。またロビーにはコンピューターが数台設置されていて自由に使えるようになっていた。別室ではワールドビルドをしたり、参加者とオロビル高校の生徒たちがFCS企画を進めていたりなかなか良く企画されていたと思う。

ただ食事は昼がピザの宅配だったり土曜日夜のパンケットといってもバイキングスタイルだったりしてそれほど期待とおりではなかった。ドイツから来たライターにインタビューを受けたりもした。講演ホールの片隅にはTシャツや宇宙関係のモデルを販売するコーナーができていた。ちなみにコンタクトTシャツは、コンタクトジャパンが先に始めたグッズである。「ロードオブザリング」のバッジもあったのは面白かった。またNASA関連の商品やお土産ものは、研究所入口の近くにあるスーベニヤセンターで買うことができた。この定番は「宇宙食」や「帽子」であろう。貫禄のあるおばさんがカウンターにいた。

今年は、期間限定で「マース・センター」という展



示場が研究所を出たすぐのところにできていたので大会終了後の月曜日にのぞいてみた。ウェブサイトの写真で見たよりも実際は小さな建物ものだった。白いバルンドームの中に展示があるが、ざっと見たところ主に小中学生用というか一般来場者用のものである。実際に小学生たちがバスでどンドンやって来ていた。ただ一室にさりげなく本物の「月面の岩石」が展示してあったのはさすがである。なにしろコンタクトで最新情報やCGを見ているのでこれは比較する方が無理な話である。

その2「講演報告」へ続く

お知らせ

おかげさまでなんとか天気にも恵まれ、Advance CONTACT 2 も盛況のうちに終えることができました。今回参加できなかった方も、一度西はりま天文台へ行って見て下さい。

大迫代表がアメリカの CONTACT に参加しました。今号と次号にわたってレポートを掲載する予定です。

現在スタッフはCJ6に向けて鋭意活動中です。申込み用紙を同封しています。是非ご参加下さい。

いつもながら、皆様からのご意見ご要望もお待ちしています。こちらもよろしくお願ひします。

〒

〒

〒 477-0034 東海市養父町諸之木 26-3  
エスポア横須賀 802 竹林方  
CONTACT Japan 事務局

TEL 053-477-0034

ID

contactj@tty.gr.jp

majoromo@ml.asahi-net.or.jp

majoromo@ml.asahi-net.or.jp

subscribe contact-j

contact-j@ml.asahi-net.or.jp

contact-j@ml.asahi-net.or.jp

contact-j@ml.asahi-net.or.jp